

# Weekly コラム

令和5年7月4日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

## 活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

## ハイパーループ

夢の高速輸送システムとして、スペースX社のCEO、イーロン・マスク氏が2013年に構想を提唱して以来、実現に向けて、世界各国の多くの企業が開発に取り組んでいます。日本では2027年開業を目指すリアモーターカーの巡航最高速度はおよそ時速500kmと言われていますが、ハイパーループでは時速1000km以上を実現目標にしています。

ハイパーループ構想とは亜真空状態にしたチューブの中で、車両を磁力で浮遊させ、高速移動させる技術のことです。空気抵抗が少ないこと、騒音が発生しないこと、航空機と比べ都市部へのアクセスが容易であること、また、現存する大量輸送方式よりもエネルギー効率が高いことなど、実現すればまさに夢のようなシステムです。

また、輸送スピード以外にもメリットが多くありますが、地下トンネルを通ることにより、地上の天候に左右されないことも特徴です。米国政府の報告書によりますと、米国国内でハリケーンなどの気象による災害で2021年だけで688人が死亡し、年間の被害額は1450億ドル(約19兆円以上)にも上ります。ハリケーンの被害ニュースでは、建物や高速道路などが破壊された様子を良く見かけます。

異常気象が叫ばれる中、天候に全く左右されない輸送手段は米国だけでなく、世界的にも注目される理由になっています。

ですが、そんな夢のようなハイパーループにも課題はあります。亜真空のチューブや駅な

どに莫大な費用がかかる点です。また、超高速の車両運営システムなどを考えると、既存の鉄道よりもはるかにコストが多くなってしまふ事です。

世界中で開発が進められていますが、スペインのハイパーループ企業Zeleros(ゼロレス)は2050年までに、世界5大陸の主要都市を全長88,500kmのハイパーループ網で結ぶ構想を提示しています。

今後の開発課題は各社の規格統一や、安全性の確保、運営コストなどまだまだ実用化までには、多くのハードルがあるようです。ですが、環境への影響が少ないとなれば、次世代の輸送システムとして益々注目が集まりそうです。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。